



第10期 中間株主通信

2016年4月1日から2016年9月30日まで

ダイキョーニシカワ株式会社

証券コード：4246



ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
当社の第10期第2四半期連結累計期間(2016年4月1日から2016年9月30日まで)の連結業績につきまして、ご報告申し上げます。

2016年12月

代表取締役社長 内田 成明

■ 第2四半期の業績について

当第2四半期連結累計期間(2016年4月1日から2016年9月30日まで)の連結業績は、主要販売先への売上減や円高による邦貨換算の影響等により、売上高は前年同期と比べ4,437百万円(5.6%)減少の74,474百万円となりました。

営業利益は、コスト低減活動により改善に努めましたが、減収影響や新製品の量産にかかる費用の増加等により、前年同期と比べ914百万円(11.0%)減少の7,422百万円となりました。経常利益は、前年同期と比べ1,206百万円(14.8%)減少の6,943百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期と比べ677百万円(11.9%)減少の5,039百万円となりました。

■ 通期の業績の見通しについて

通期(2016年4月1日から2017年3月31日まで)の連結業績予想につきましては、円高による邦貨換算の影響が続くものの、製品構成の変化等により、前回予想を上回る見込みとなりました。売上高152,000百万円(前期比5.5%減)、営業利益14,200百万円(同17.6%減)、経常利益13,600百万円(同17.3%減)、親会社株主に帰属する当期純利益9,800百万円(同15.3%減)を見込んでおります。

■ 配当について

中間配当につきましては、2016年11月9日開催の取締役会において、一株につき12円とすることを決議いたしました。

主要連結財務データ

(単位：百万円)

	第8期 2014年度	第9期 2015年度	第10期(当期)第2四半期 2016年度第2四半期
売上高	134,343	160,779	74,474
営業利益	12,353	17,236	7,422
経常利益	10,831	16,450	6,943
親会社株主に帰属する当期・四半期純利益	6,935	11,576	5,039
1株当たり当期・四半期純利益 (単位：円)	95.83	159.69	68.19
総資産	115,552	123,568	115,904
純資産	43,567	54,047	55,689
1株当たり純資産 (単位：円)	580.72	712.37	735.79

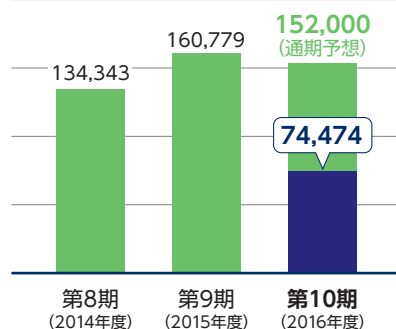
※当社は、2016年1月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。第8期(2014年度)の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり当期・四半期純利益」、「1株当たり純資産」を算定しております。

連結財務ハイライト

■ 第2四半期 ■ 通期

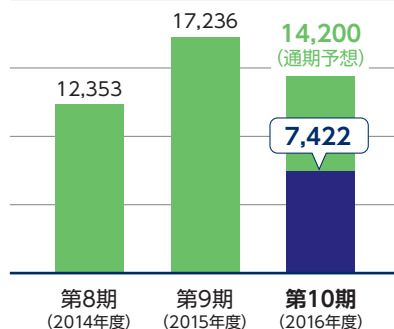
売上高

(百万円)



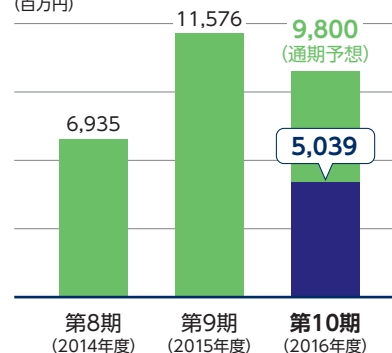
営業利益

(百万円)



親会社株主に帰属する 当期・四半期純利益

(百万円)



ダイキョーニシカワは、国内の各自動車メーカー向け樹脂部品の分野で、材料ブレンド開発から、製品開発、設計、製造までを手がける総合プラスチックメーカーです。

自動車外装・外板部品



- バンパー
- フェンダー
- フード
- バックドア
- ルーフ
- ルーフラック
- スポイラー
- ラジエーターグリル
- リアガーニッシュ
- サイドステップモール
- 等

自動車エンジンルーム部品



- オイルストレーナー
- エンジンカバー
- インテークマニホールド
- シュラウドパネル
- シリンダーヘッドカバー
- パワステタンク
- 等

自動車内装部品

- インstrumentパネル
- コンソールボックス
- センターモジュール
- チェンジノブ
- スイッチパネル
- インジケータパネル
- アシストグリップ
- ピラートリム
- ドアトリム
- トランクサイドトリム
- 等



住宅関連

バスユニット部材

- バスタブ
- カウンター
- ミラーパネル
- 洗い場



洗面・キッチン部材

- 人造大理石キッチンカウンター
- ガラス繊維レス人造大理石製品

トイレタリー部材

- 便座



当社では、これまで培ってきた高い技術力、多彩な工法・生産設備を活用し、自動車に関わるあらゆる樹脂部品を提供しています。

今回は、内装の加飾パネルをご紹介します。

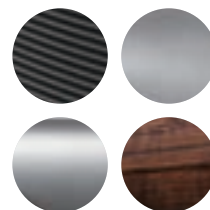
加飾パネル



近年、自動車の内装には、木目調やメッキ調、カーボン調といった様々な種類の「加飾」が施されたパネルが使用されています。助手席前面のデコレーションパネルなど、車によって形状や仕様は異なりますが、内装のグレード感を高める役割を果たしています。

「樹脂製品自体に柔らかさや重厚感を感じますか?」と聞かれて、「はい」と答える方は、いらっしゃらないのではないでしょうか。しかし、樹脂に「加飾」と呼ばれる加工を施すと、「これが樹脂製?」と驚かれるほど、表面がまるで本皮のようだったり、見た目に削り出しの金属のような重厚感を与えたりと、本物と同等またはそれ以上の高級感を表現することができます。

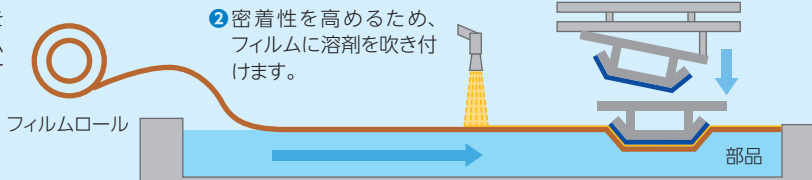
加飾には多種多様な工法があり、それぞれ特徴があるため、お客様の要望にお応えできる最適な工法を選択する必要があります。今回は当社の多様な加飾工法の中から、「水圧転写工法」をご紹介します。



水圧転写工法とは

デザインフィルムを浮かべた水面に転写させる部品を押し当て、水圧を利用してデザインを部品に転写する工法です。どんな柄にも対応できること、部品の形状が多面体や球体であっても対応できることが水圧転写工法の特長です。

- 1 フィルムロールをセットし、フィルムを水面に浮かせて送ります。



- 2 密着性を高めるため、フィルムに溶剤を吹き付けます。

- 3 角度に注意しながら、部品をゆっくり水面に押し当て、部品の表面にフィルムの柄を転写します。

水圧転写は、フィルムの流れるスピード、水面の状態、水温などでフィルムの付き方が変わるため、高度な技術が必要とされます。



水圧転写後は塗装を施します。当社では、より付加価値を高め、高級感を実現できる「グラデーション塗装」と呼ばれる当社ならではの工法も有しています。

ダイキョーニシカワは、多様なニーズにお応えする高度な加飾技術で、お客様に満足以上の喜びをお届けします。

この工場で作っています

鶴浜工場

鶴浜工場は、防府市の鶴浜鉄工団地内にあり、1992年に内装部品専門工場として操業を開始しました。

ウレタン技術やパウダースラッシュ技術、水圧転写工法を得意とする工場で、インストルメントパネルやドアトリム、デコレーションパネルなどを生産しています。



《鶴浜工場概要》

所在地：山口県防府市浜方287-14
主要生産品目：インストルメントパネル
従業員数：199名

プラスチックのおはなし

ダイキョーニシカワの強み

当社は、常に新しい発見と可能性を追い求めています。
プラスチックについての当社の多彩な技術や、開発にかける熱い思いをお伝えします。

第4回 内装の仕上がりへのこだわり

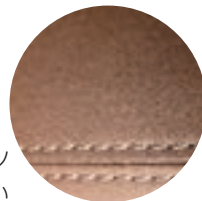
車は安心して乗れる安全な乗り物であることが大前提です。運転席の前面にあるインストルメントパネルは、運転に集中できるレイアウトであることや、視認性の良さ、また万が一の時のエアバッグの展開性など、様々な機能を考慮して開発を行っています。

真夏の炎天下に車を駐車すると、インストルメントパネルの表面の温度は猛烈に上がります。また、真冬は氷点下になる地域もあり、車の内装部品は夏の暑さにも冬の寒さにも繰り返し耐えられる材質でなければなりません。

もちろん、機能や耐久性だけでなく、より快適に心地よく過ごしていただける空間づくりも求められます。「乗るたびに気分が高揚する」、「人に自慢したくなる」、「もっとずっと乗っていたいと思う」そんな車を目指して、当社は内装の仕上がりにも力を入れています。

当社のインストルメントパネルは、マツダの全車（OEM車を除く）に採用されています。今年の11月に発売になったデミオの特別仕様車にも、当社の製品が採用されました。助手席の前面に配置された、スエード調の柔らかい手触りのデコレーションパネルが、さらなる上質感を醸し出しています。

これからも、最先端の表装技術を駆使し、車の高級感や質感を高め、さらには本物の質感を超えるような表現、新しい表現にも挑戦し、ダイキョーニシカワ独自の世界観を提案してまいります。



ダイキョーニシカワ 開発担当者に聞く

Q インストルメントパネルは何度から何度まで耐えられますか？

A -30℃から120℃まで耐えられるようになっています。過酷な環境下でも、形状や色、寸法などが変化することのないよう、厳しい検査を繰り返し行っています。

Q 高級感を出すための工夫としては、どんな手法がありますか？

A すべての車に行っているわけではありませんが、例えばインストルメントパネルには、本革のような触感をもたせるための模様を施し、さらに、柔らかさを出すためにウレタンを注入発泡させています。

Q 「加飾」にはどんな工法がありますか？

A 水圧転写や塗装、フィルムインサートなど、多様な工法があります。最近では、「手巻き」と呼ばれる工法で、人工皮革を縫い合わせたデコレーションパネルが採用され、今までにないソフト感と高級感が高い評価をいただいております。



会社概要

社名	ダイキョーニシカワ株式会社
本社	広島県安芸郡坂町北新地一丁目4番31号
設立	2007年4月1日
資本金	54億2,665万3,900円
従業員数	4,937名 (連結)

会社役員

代表取締役社長	内田 成明
代表取締役副社長	藪上 富美高
取締役専務執行役員	横田 善博
取締役専務執行役員	竹岡 健次
取締役専務執行役員	桧山 俊夫
取締役専務執行役員	錦村 元治
社外取締役	久保田 洋志
社外取締役	出原 正博
社外取締役	圓山 雅俊
常勤監査役	繁元 則彦
社外監査役	安村 和幸
社外監査役	廣田 亨

グローバル事業拠点

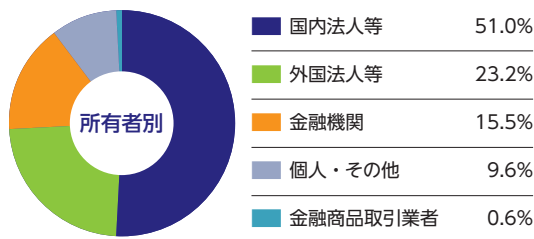


※上記の他に、連結子会社2社、持分法適用関連会社2社があります。

株式の状況

発行可能株式総数	236,704,000株
発行済株式の総数	73,896,400株
単元株式数	100株
株主数	6,001名

株式分布状況



大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
西川ゴム工業株式会社	11,835,200	16.0
株式会社イノアックコーポレーション	3,924,600	5.3
三菱商事プラスチック株式会社	3,924,600	5.3
HCP -1号投資事業有限責任組合	3,618,560	4.9
株式会社広島銀行	3,614,400	4.9
住友商事株式会社	3,573,680	4.8
三井物産株式会社	3,222,720	4.4
マツダ株式会社	2,958,800	4.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,040,400	2.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,969,500	2.7

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヵ月以内
剰余金の配当の基準日	期末配当3月31日 中間配当9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 0120-094-777 (平日9:00~17:00)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
公告掲載方法	電子公告 http://www.daikyonishikawa.co.jp/ 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

ホームページのご案内

当社のホームページでは、適時開示情報をはじめ、決算短信などの各種関連資料など最新の情報をご覧いただけます。ぜひご利用ください。



<http://www.daikyonishikawa.co.jp/>



ダイキョーニシカワ株式会社

TEL:082-885-9979

